

# 頂点見据え県勢挑む

## 全国高校総体 あすから北海道など



## 狙うは初V 集大成の夏

柔道女子・生光学園

全国高校総体体育大会(インターハイ)が21日から8月21日にかけて、北海道を中心に開かれる。全国47都道府県の総体やブロック予選を勝ち抜いたチーム、選手が31競技で熱戦を展開する。一部競技は山形、栃木、和歌山の各県で行われる。徳島県からは30競技に512人(男子267人、女子245人)が出場。団体は、前回大会で5位入賞した柔道女子の生光学園に期待がかかる。個人種目では陸上のトラック、フィールド、投てき種目などで上位入賞が見込まれる。注目チーム・選手の意気込みを紹介する。

昨夏の四国インターハイ団体の生光学園が、集大成の夏を迎える。昨年のインターハイで団体日本一を目指した生光学園女子柔道のメンバー。前列左から、牛方、木村、杉本=同校(立花善晴撮影)

インターハイで団体日本一を目指す生光学園女子柔道の(前列左から)牛方、木村、杉本=同校(立花善晴撮影)

17歳になった大塚の士。入塾当初は苦と自信のある内股の先手必勝を誓う。中堅を任せられる杉本は、団体戦インターハイを決めるための20人総行の部内選考を勝ち抜いた。伊田監督は「技の切れがいい」と高く評価する。木村と同じ内股を得意とする杉本は初のインターハイに向け「勝つ気持ちを出して戦う」と語る。

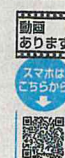
先鋒(せんしょう)の木村は、全国選抜大会の後も「17歳だからと、日々の練習に集中している」と冷静に語る。とはいえ、仲間と臨む最後の「勝ちたい気持ちが一層強くなった。相手より先に仕掛けてチームの練習に集中して」と語る。

3人は全国制覇へ避けて通れない強豪校の戦力を研究し、どう試合に臨むか意見を交わしながら練習に励んでいる。主将の牛方は「最後のインターハイなので、しっかり準備をしよう」と決意を語った。



インターハイで団体、個人とも日本一を目指し練習に励む生光学園の牛方(左)と木村(同校)

チームは8月10日に行われる初戦の2回戦で埼玉と八頭(鷹取)の勝者(対戦)と対戦する。(佐々木秋穂)



動画あります  
 スマホはごちらから